

厚生労働科学研究費補助金 (がん対策推進総合研究事業)
(分担研究報告書)

インターネット上での健康や医療についての情報の利用に関する意識調査

研究協力者 齋藤 弓子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部 (特任研究員)
研究分担者 高山 智子 国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部 (部長)

研究要旨

本研究では、がん情報サービスにおける今後の情報提供のあり方の検討に役立てるため、一般市民であるWeb調査会社のパネル利用者とがん情報サービスの利用者を対象にインターネット上での健康や医療についての情報検索の際の評価や判断基準に関する意識調査を実施し、分析した。

その結果、インターネット上での健康や医療についての情報検索の際には、スマートフォンを利用している割合が高いことが示された。また、インターネット上の健康や医療に関する情報の信頼性を評価する際の判断基準として「ウェブサイトを運営している組織名が書かれていること」「他の複数の情報と比べて確認すること」「作成された日付や更新、修正、または改定された日が書かれていること」「科学的根拠に基づく情報であること」を確認する重要性は一般的に普及しつつあると考えられたが、特にパネル利用者では、重要性を認識しているこれらの項目について、実際に確認している割合が低かった。

がん情報サービスを始めとするインターネット上でのがんに関する情報提供について検討する際には、閲覧するデバイスの違いを考慮したコンテンツ作成やサイトデザインの更なる工夫が必要であると考えられた。また、一般市民へ情報の信頼性を評価する際の判断基準を周知するのみならず、それらの重要性を認識して行動に移せるよう具体的な働きかけを提示することが求められる。

A. 研究目的

医療情報はインターネットを介して収集される機会が増加している。一般的に、がんは命に関わる深刻な病気と捉えられているため、情報提供の際には利用者が必要とする情報を安心して収集し、その内容に基づき医療者に相談できる環境整備が求められる。しかし近年では、インターネット上の膨大な情報から信頼できるがん情報を収集することは極めて困難な状況にあり、利用者への情報支援のための仕組みづくりは喫緊の課題である

そこで本研究では、国立がん研究センターが運営する「がん情報サービス」を主としたインターネット上でのがんに関する情報提供のあり方についての検討に役立てるため、一般市民およびがん情報サービスの利用者の方を対象に意識調査を実施し、分析したので、その結果を報告する。

B. 研究方法

Web調査会社にパネル登録している一般市民（以下、パネル利用者と称する。）（調査1）およびがん情報サービス利用者（調査2）、それぞれ延べ2,000人を調査対象とした。調査方法は、無記名自記入式の

ウェブ調査である。調査1は、業務委託先のWeb調査会社を通じてパネル利用者へ調査協力を依頼した。調査2は、がん情報サービスのサイト閲覧者へ調査協力を依頼した。がん情報サービスのページに10秒以上アクセスした方に対して、調査ページへの入り口がポップアップされる仕組みを取り、「今すぐ回答する」「あとで回答する」「回答しない」の3つの選択肢を置き、「あとで回答する」の場合には小さく表示し続ける形をとった。調査期間は2022年3月17日～3月24日（調査1）と2022年3月28日～4月18日（調査2）であった。

調査項目は以下の複数の項目から成る。

- 基本属性（年代・性別・最終学歴など）
- インターネット上での健康や医療に関する情報を探す際に利用するデバイス
- インターネット上での健康や医療に関する情報収集の頻度
- インターネット上の健康情報を検索・評価・活用する能力：eHealth Literacy Scale(eHLS)日本

語版 8項目 (光武他,2011)

- ・ 医療情報の信頼性を評価する際の判断基準に関する認識

本稿では、調査1と調査2それぞれの調査項目について、全体に占める割合を算出し、グラフ化して視覚的に確認した。

(倫理面への配慮)

本研究は、個人情報収集しないため研究倫理審査には申請しないが、国立がん研究センター研究倫理審査委員会より「審査不要(通知番号:6000-054)」の判断を得て実施した。また、対象者へは、本研究の目的・方法・倫理的配慮を記した説明文をよく読み、回答するよう依頼した。また、Web回答フォームは「協力に同意する」にチェックした者のみ回答できるよう設定した。

C. 研究結果

調査1：パネル利用者調査の結果 (図1-1~1-11)

調査協力を依頼した2000名(有効回答率100%)より、同意が得られた。

回答者の性別は、男性が55.3%、女性が44.8%であった。年齢(年代)は、30~50歳代が7割であり、10歳代と70・80歳代以上はいなかった(0%)。最終学歴は「大学・大学院」との回答が5割を占めていた。職業は、会社員が最も多く約5割であった(49.4%)。過去あるいは現在において医療関連の仕事の経験があると回答した者は15.5%であった。また家族ががんと診断されたことがある者は約5割であった(48.9%)。

普段、健康や医療に関する情報をインターネット上で探す際に利用するデバイスは、スマートフォンが最も多く62.3%であり、次いでパソコン(34.2%)が多くなっていた。インターネット上での普段の健康や医療に関する情報収集の頻度は、「年に1回程度/半年に1回程度/2~3ヶ月に1回程度」をあわせて5割程であった。一方で、週1回以上の情報収集をしている回答者は2割弱であった。

eHealth Literacyの得点は、 23.6 ± 5.9 点(平均得点 \pm SD)であった。項目別にみると「私は、自分自身の健康状態についての疑問を解決するために、どのようにインターネットを使用すればよいか知っている」は「強くそう思う/まあそう思う」はあわせ42.9%と最も多く、次いで「インターネット上で見つけた健康情報の活用方法を知っている」が37.7%であった。

インターネット上の健康や医療に関する情報の信頼性を評価する際の判断基準について、その重要度を問う設問では、「科学的根拠に基づく情報であること(78.8%)」「他の複数の情報と比べて確認すること(72.3%)」「作成された日付や更新、修正、または改定された日付が書かれていること(71.9%)」「ウェブサイトを経営している組織名が書かれていること(67.6%)」の順に、「まあ重要である/とても重要である」の回答が多くなっていた。

またインターネット上で情報を探するとき実際に確認しているかについて、重要度と同様の項目を設け尋ねた。その結果、重要度と同様に「科学的根拠に基づく情報であること(59.7%)」「他の複数の情報と比べて確認すること(55.9%)」「作成された日付や更新、修正、または改定された日付が書かれていること(55.3%)」「ウェブサイトを経営している組織名が書かれていること(50.4%)」の順に、「時々確認する/いつも確認する」の回答が多かった。しかし、いずれの項目においても、実際に確認している割合は重要度の回答割合を下回っていた。

調査2：がん情報サービス利用者調査の結果
(図2-1~2-8)

調査期間中にがん情報サービスを利用した1914名より、調査協力への同意が得られた。

回答者の性別は、男性が43.8%、女性が56.2%であった。年齢(年代)は、40~60歳代が7割であり、10歳代~80歳代まで幅広い年代からの回答が得られた。最終学歴は「大学・大学院」との回答が約5割を占めていた。「がん」との関わりは、患者本人(47.5%)が最も多く、次いで患者の家族(28.2%)、医療関係者(17.1%)であった。

普段、健康や医療に関する情報をインターネット上で探す際に利用するデバイスは、スマートフォンが最も多く53.2%であり、次いでパソコン(40.2%)が多くなっていた。インターネット上での普段の健康や医療に関する情報収集の頻度は、週1回以上(26.1%)、毎日(14.9%)と回答した者が全体の3割を占めた。

eHealth Literacyの得点は、 25.6 ± 6.0 点(平均得点 \pm SD)であった。項目別にみると「私は、自分自身の健康状態についての疑問を解決するために、どのようにインターネットを使用すればよいか知っている」は「強くそう思う/まあそう思う」はあわせ51.5%と最も多く、次いで「インターネットでどのような健康情報サイトが利用できるか知っている(48.7%)」「イ

ンターネット上で見つけた健康情報の活用方法を知っている(46.3%)」であった。

インターネット上の健康や医療に関する情報の信頼性を評価する際の判断基準について、実際に確認している項目を尋ねる設問では、「ウェブサイトを運営している組織名が書かれていること(74.7%)」「他の複数の情報と比べて確認すること(73.2%)」「作成された日付や更新、修正、または改定された日が書かれていること(69.0%)」「科学的根拠に基づく情報であること(68.2%)」の順に、「時々確認する/いつも確認する」の回答が多かった。

調査1・2: パネル利用者とがん情報サービス利用者調査結果の対比 (図3-1~3-7)

調査1・2調査では、回答者の属性に違いが見られた。性別は、パネル利用者は男性(53.1%)が多く、がん情報サービス利用者は女性が(60.2%)が多かった。年代は、パネル利用者は30~50歳代が7割を占めていたのに対し、がん情報サービス利用者では、10歳代から80歳以上までのより幅広い年代から回答が得られた。

また、普段の医療に関する情報収集の頻度は、パネル利用者は「1年に1回程度/半年に1回程度」はあわせて3割であったのに対し、がん情報サービス利用者では、週1回以上の情報収集をしている回答者は4割近くであった。インターネット上の健康情報を検索・評価・活用する能力を示すeHealth Literacyについて、パネル利用者(23.6点)に比べがん情報サービス利用者(25.6点)の得点が有意に高かった。

インターネット上の健康や医療に関する情報の信頼性を評価する際の判断基準について、実際に確認しているかを問う設問では、パネル利用者とがん情報サービス利用者共に、「ウェブサイトを運営している組織名が書かれていること(パネル利用者 vs がん情報サービス利用者: 50.4% vs 74.7%)」「他の複数の情報と比べて確認すること(55.9% vs 73.2%)」「作成された日付や更新、修正、または改定された日が書かれていること(55.3% vs 69.0%)」「科学的根拠に基づく情報であること(59.7% vs 68.2%)」の項目で「時々確認する/いつも確認する」の回答割合が高く、その割合は、いずれの項目でも、がん情報サービス利用者がパネル利用者を上回っていた。

D. 考察

本研究により、パネルおよびがん情報サービスの利用者といった一般市民における、インターネット

上での健康や医療についての情報の利用に関する認識を明らかにした。パネル利用者とがん情報サービス利用者では属性などの違いはあるものの、普段、健康や医療に関する情報をインターネット上で探す際に利用するデバイスは(パネルvsがん情報サービス)、スマートフォン(62.3%vs53.2%)、パソコン(34.2%vs40.2%)の順であり、近年のスマートフォン利用率の向上を反映している結果であった(総務省 通信利用動向調査.2020)。インターネットを利用する際のデバイスは、対象者のeHealth Literacyや情報収集活動にも影響することが推察され、がん情報サービスを始めとするがんに関する情報コンテンツを作成する際には、閲覧するデバイスの違いを考慮したコンテンツ作成やサイトデザインの検討が求められる。

本調査では、eHealth Literacyの得点や情報の信頼性を評価する判断基準を実際に確認している割合は、いずれもがん情報サービス利用者で高い傾向が示された。パネル利用者とがん情報サービス利用者では情報収集の頻度が大きく異なっており、その頻度はがん情報サービス利用者で高かった。がん情報サービス利用者は、がんに関わる当事者(患者・家族・医療従事者他)として健康や医療に関する情報を切に必要としており、目的や問題意識を持って情報収集していることが推察される。対象者が置かれている立場や状況、情報収集の目的やこれまでの経験など多様な要因が、本調査の結果にも影響している可能性が考えられる。今後、本調査で得られたデータの更なる分析により、eHealth Literacyや情報の信頼性に関連する要因を踏まえ、インターネット上での情報提供のあり方について検討を進める必要がある。

また、インターネット上の健康や医療に関する情報の信頼性を評価する際の判断基準として、パネル利用者とがん情報サービス利用者共に「確認している」割合が高かった項目は、「ウェブサイトを運営している組織名が書かれていること」「他の複数の情報と比べて確認すること」「作成された日付や更新、修正、または改定された日が書かれていること」「科学的根拠に基づく情報であること」であった。これらの項目を確認する重要性は、一般的に普及しつつあると考えられる。しかし、パネル利用者では、いずれの項目においても、実際に確認している割合が重要度の認識を下回っていた。インターネット上の健康や医療に関する情報の信頼性を評価する際の判断基準を認識していたとしても、実際に情報を活用する際にそれらを確認できなければ、利用者にとっての最

善な意思決定や適切な支援につながらない可能性が考えられる。そのため、一般市民へは、情報の信頼性を評価する際の判断基準を周知するのみならず、その重要性の認識をさらに高め、認識から行動に移すための何らかの働きかけが必要であると考え。今後は、本調査の詳細な分析により、具体的な働きかけを提示することが求められる。

E. 結論

本研究では、パネルおよびがん情報サービス利用者である一般市民を対象に、インターネット上での健康や医療についての情報検索の際の評価や判断基準に関する意識調査を実施した。

インターネット上での健康や医療についての情報検索の際には、スマートフォンを利用している割合が高いことや、情報の信頼性についても確認する重要性は一般的に普及しつつあるが、特にパネル利用者では、重要性の認識が必ずしも実際の確認行動につながらない可能性が示唆された。

がん情報サービスを始めとするインターネット上でのがんに関する情報提供について検討する際には、閲覧するデバイスの違いを考慮したコンテンツ作成やサイトデザインの更なる工夫が必要である。また今後、一般市民へは情報の信頼性を評価する際の判断基準を周知するのみならず、その重要性の認識を高め、認識を行動に移すための具体的な働きかけを提示することが求められる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
2. 学会発表
- なし

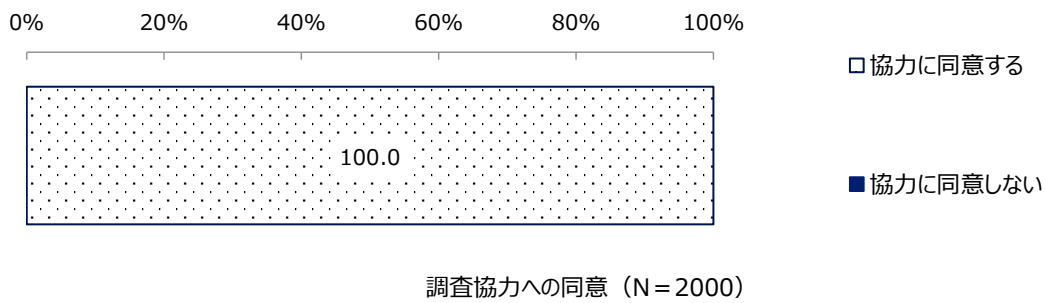
H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他
- なし

資料

調査1：パネル利用者調査結果

■ アンケート調査について



Q1-1. あなたの性別をお答えください。(図1-1)

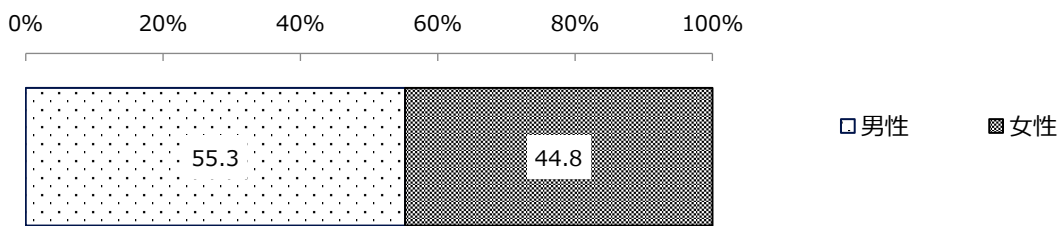


図 1-1 性別 (N=2000)

Q1-2. あなたの年齢(年代)をお答えください。(図1-2)

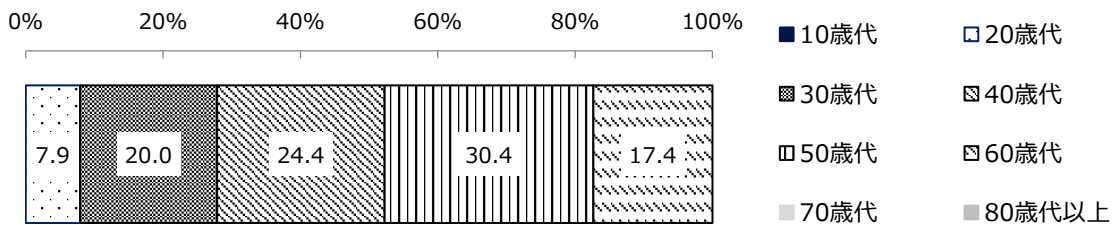


図 1-2 年代 (N=2000)

Q1-3. あなたの最終学歴をお答えください。(図1-3)

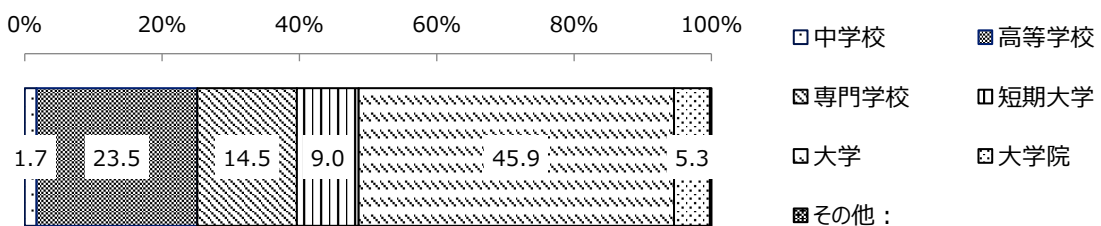


図 1-3 最終学歴 (N=2000)

Q1-4. あなたの職業をお答えください。(図1-4)

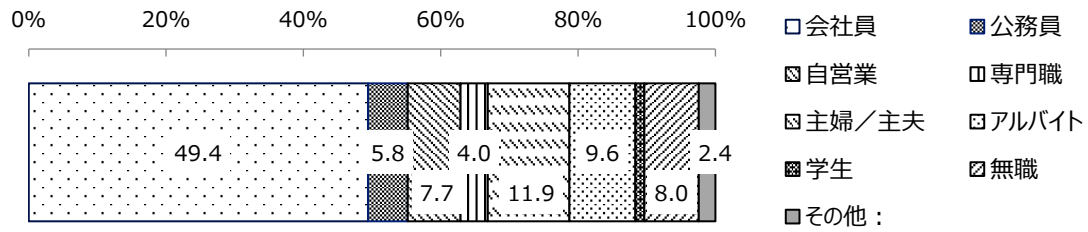


図 1-4 職業 (N=2000)

Q1-5. あなたは、過去あるいは現在において医療関連の仕事についていたことはありますか。(図1-5)

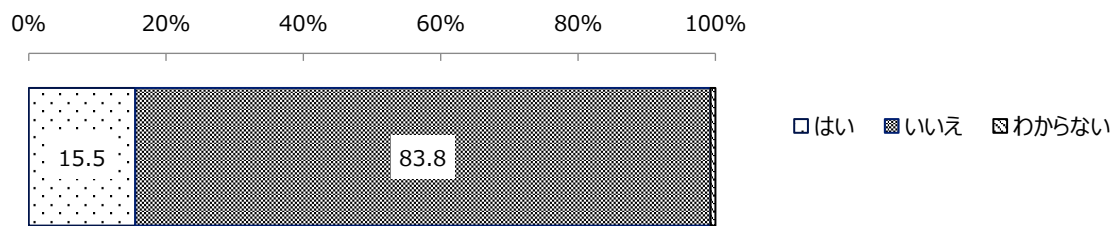


図 1-5 医療関連の仕事の経験 (N =

Q1-6. あなたご自身またはご家族が、これまでに、がんと診断されたことはありますか。※複数回答 (図1-6)

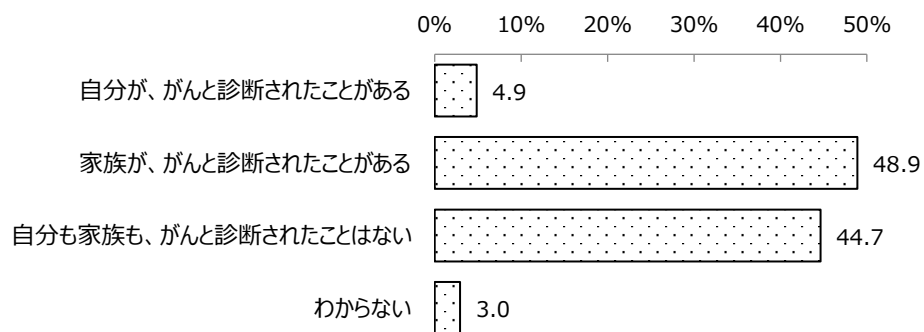


図 1-6 がんと診断された経験 (N=2000)

Q2. 普段、あなたが健康や医療に関する情報をインターネット上で探す際に利用するデバイスを教えてください。（図1-7）

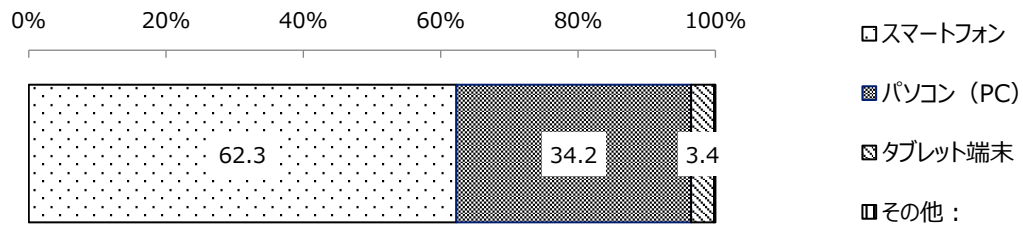


図 1-7 インターネット上での情報収集の際に利用するデバイス (N =

Q3. あなたは普段、どのくらい健康や医療に関する情報をインターネット上で見ますか。（図1-8）

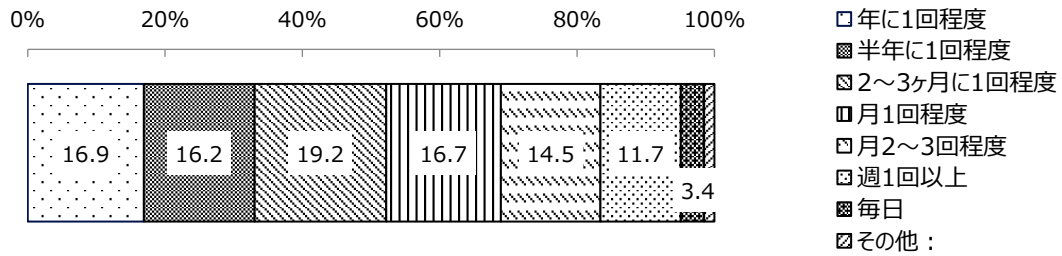


図 1-8 インターネット上での情報収集の頻度 (N = 2000)

Q4. 以下の項目について、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。(図1-9)

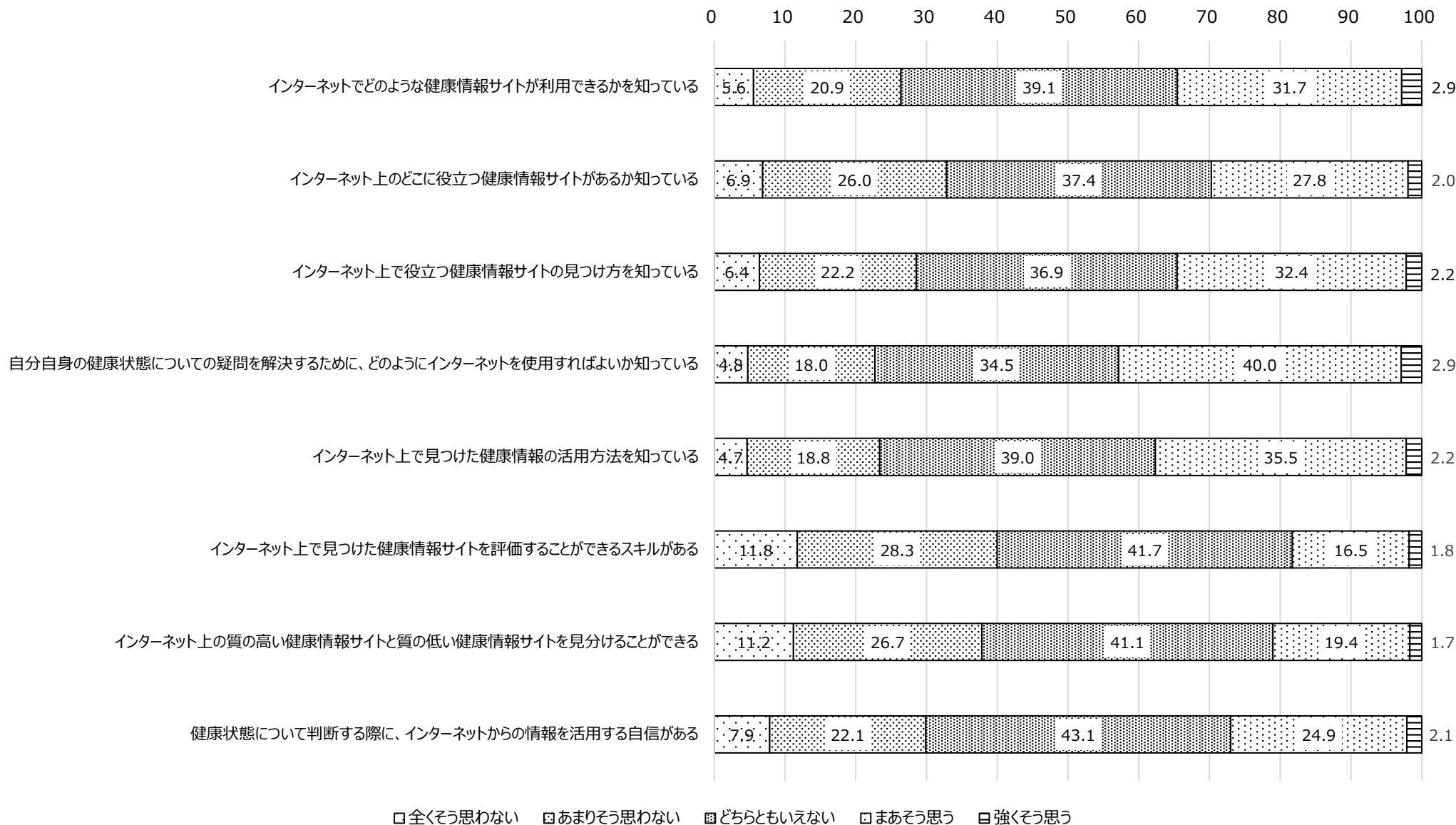


図 1-9 インターネット上の健康情報を検索・評価・活用する能力：eHealth Literacy (N =

Q5-1. 健康や医療に関する情報をインターネット上で探するとき、あなたにとって以下のことは重要ですか。(図1-10)

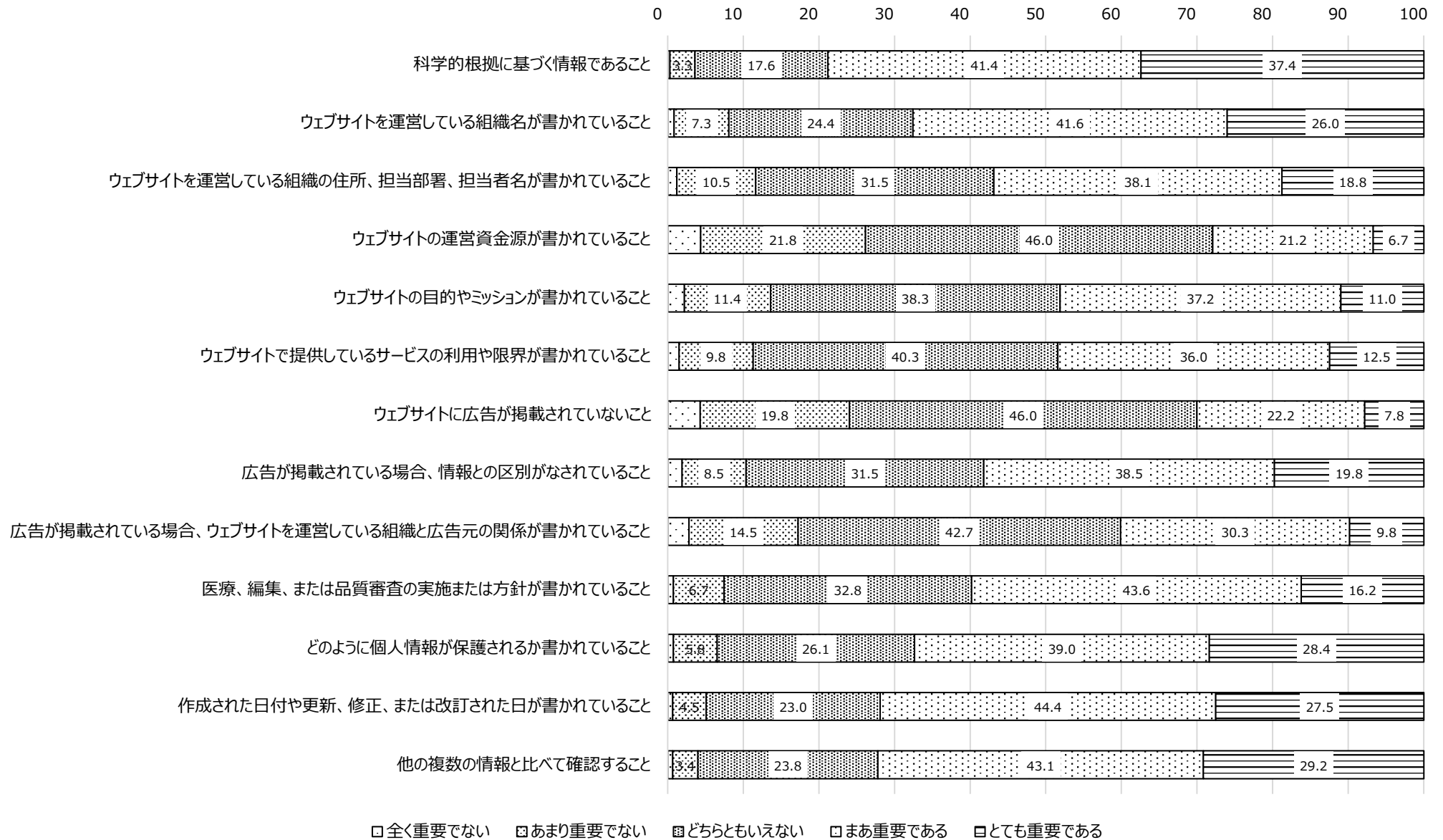


図 1-10 インターネット上の健康や医療に関する情報の信頼性を評価する際の判断基準 (N = 2000)

Q5-2. 健康や医療に関する情報をインターネット上で探すとき、あなたにとって以下のことを実際に確認していますか。(図1-11)

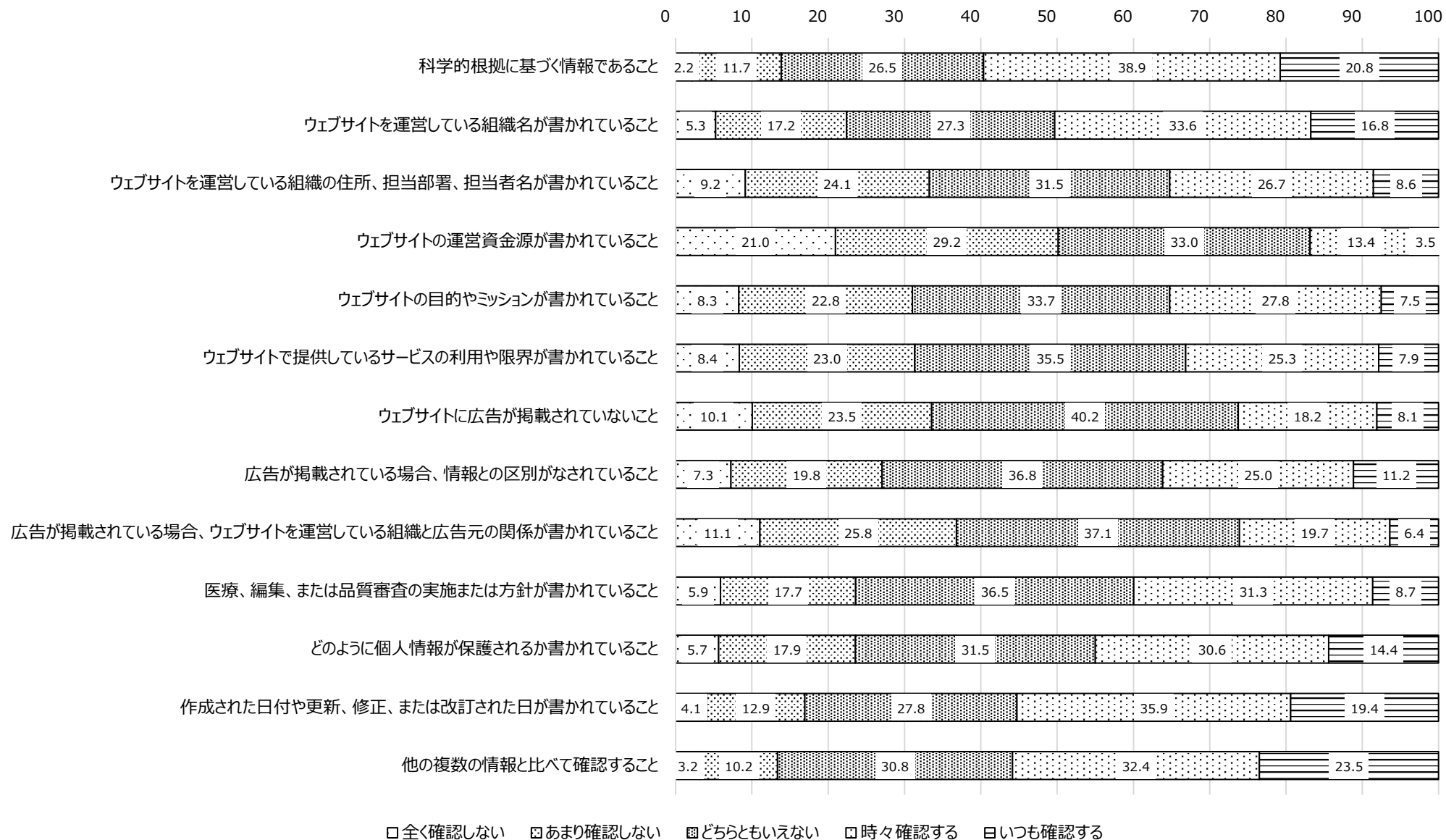
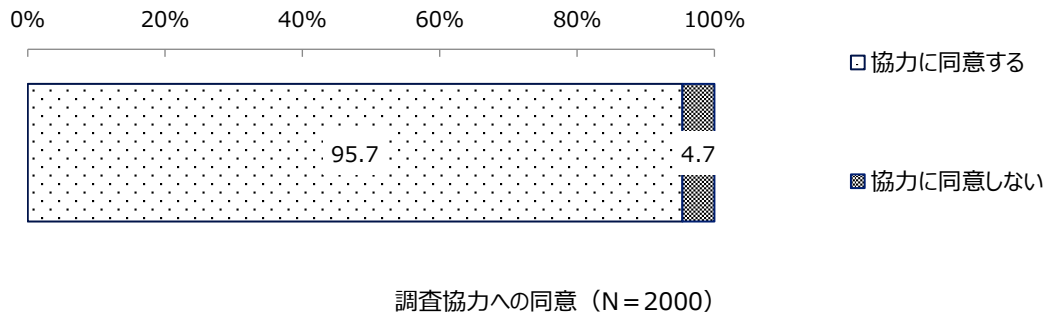


図 1-11 インターネット上の健康や医療に関する情報の信頼性を評価する際の確認事項 (N=2000)

調査2：がん情報サービス利用者調査結果

■ アンケート調査について



Q1-1.あなたの性別をお答えください。(図2-1)

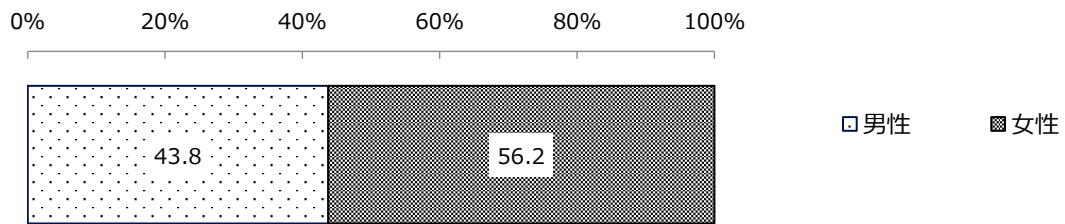


図 2-1 性別 (N = 1914)

Q1-2.あなたの年齢(年代)をお答えください。(図2-2)

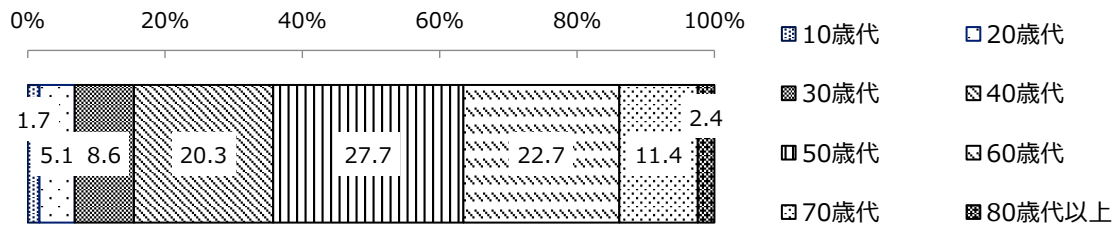


図 2-2 年代 (N = 1914)

Q1-3.あなたの最終学歴をお答えください。(図2-3)

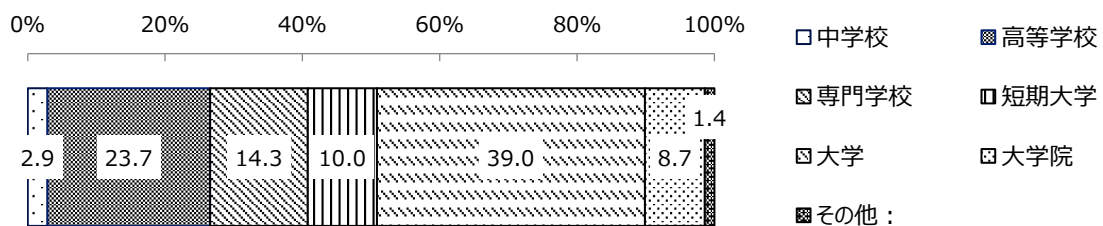


図 2-3 最終学歴 (N = 1914)

Q1-4. あなたと「がん」の関わりをお答えください。(図2-4)

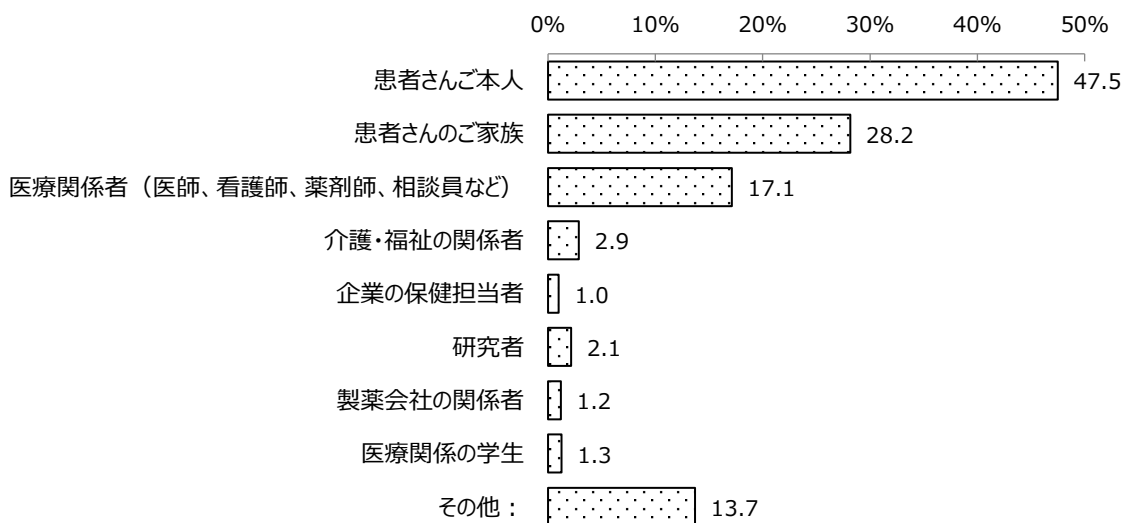


図 2-4 「がん」との関わり (N =

Q2. 普段、あなたが健康や医療に関する情報をインターネット上で探す際に利用するデバイスを教えてください。(図2-5)

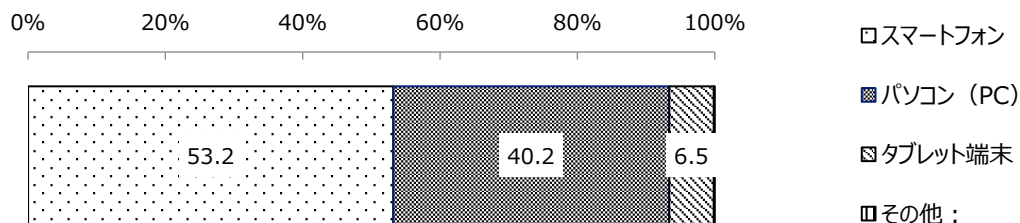


図 2-5 インターネット上での情報収集の際に利用するデバイス (N =

Q3. あなたは普段、どのくらい健康や医療に関する情報をインターネット上で見ますか。(図2-6)

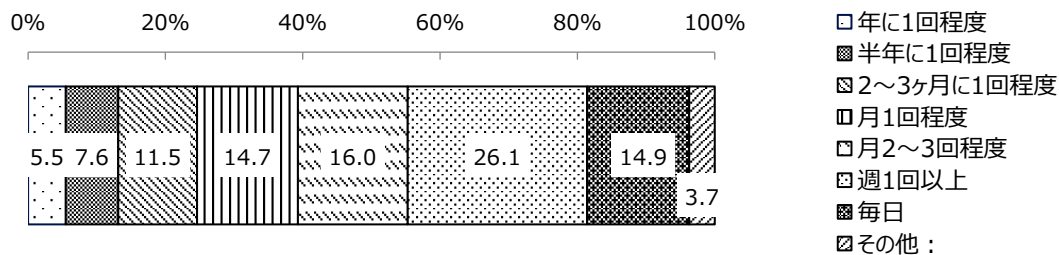


図 2-6 インターネット上での情報収集の頻度 (N = 1914)

Q4. 以下の項目について、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。(図2-7)

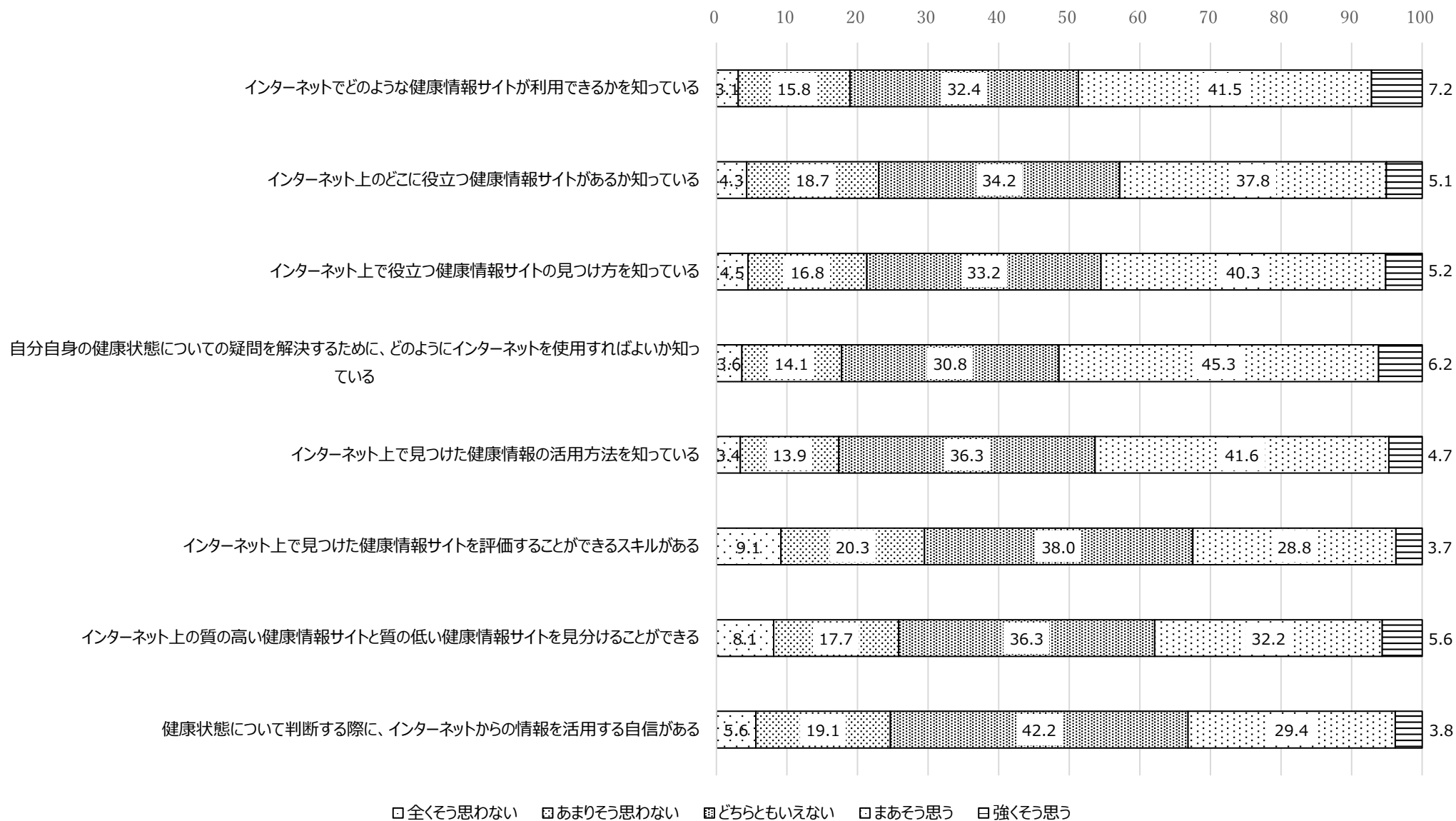


図 2-7 インターネット上の健康情報を検索・評価・活用する能力 : eHealth Literacy (N=1914)

Q5. 健康や医療に関する情報をインターネット上で探すとき、あなたにとって以下のことを実際に確認していますか。(図2-8)

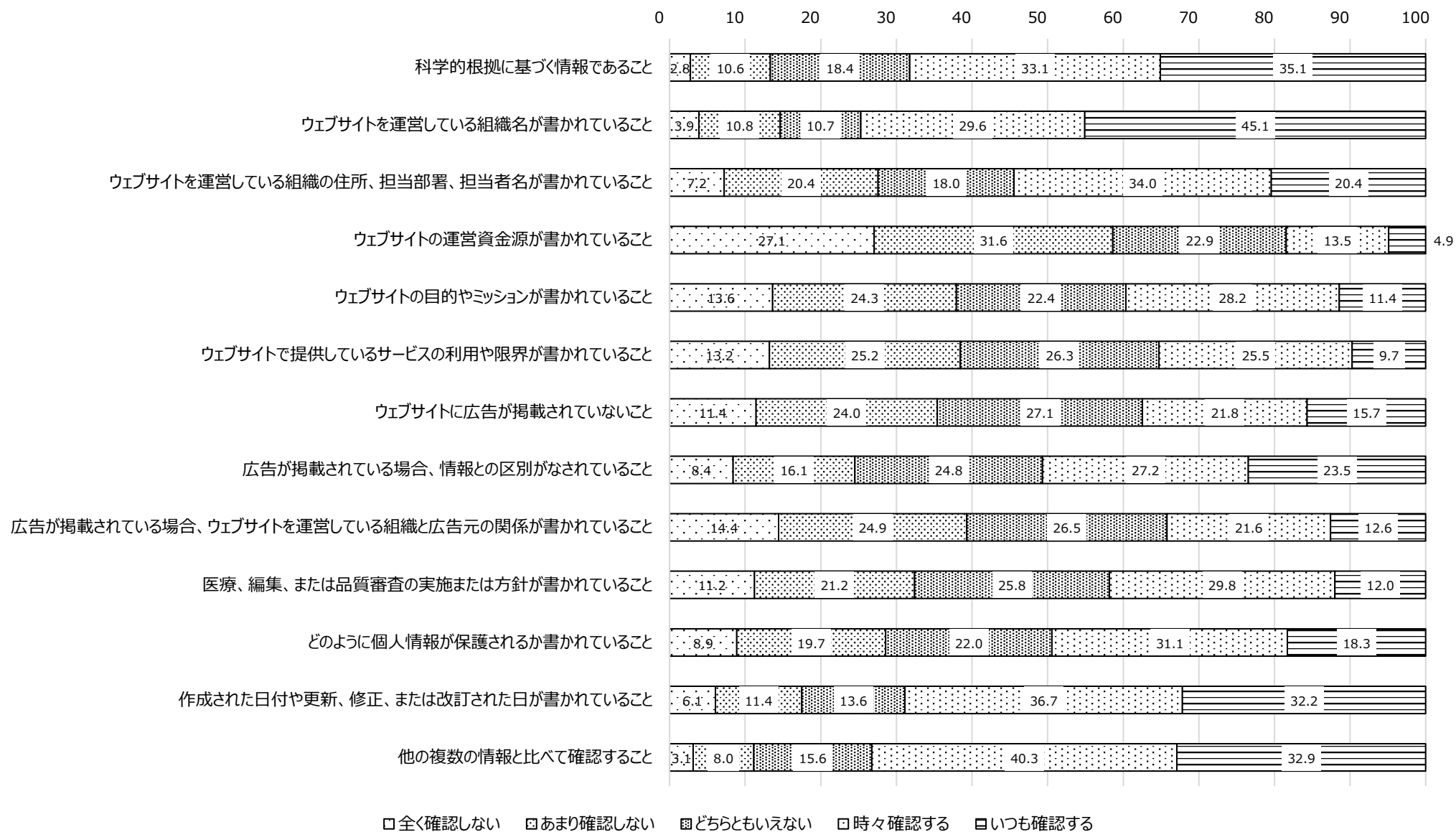
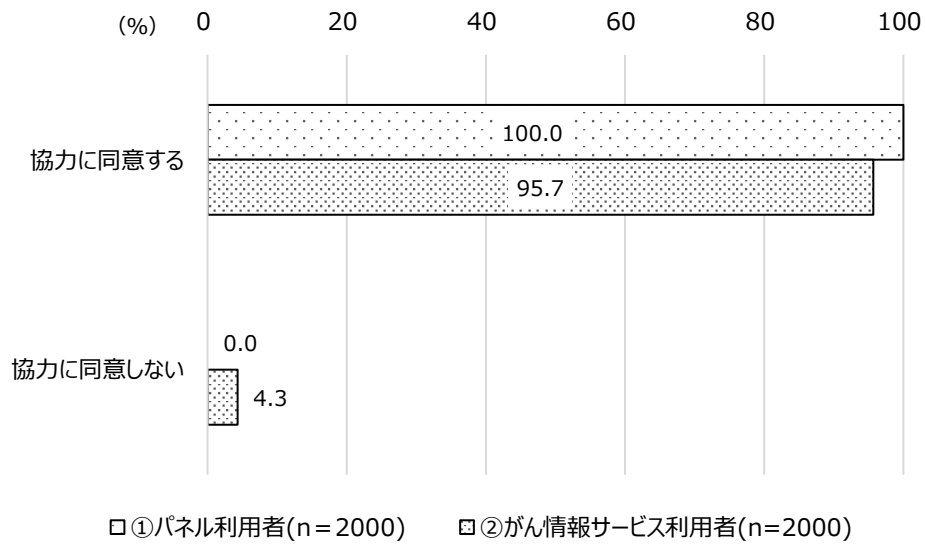


図 2-8 インターネット上の健康や医療に関する情報の信頼性を評価する際の確認事項 (N = 1914)

調査1・2：パネル利用者とがん情報サービス利用者調査結果の対比

■ アンケート調査について



調査協力への同意

Q1-1.あなたの性別をお答えください。(図3-1)

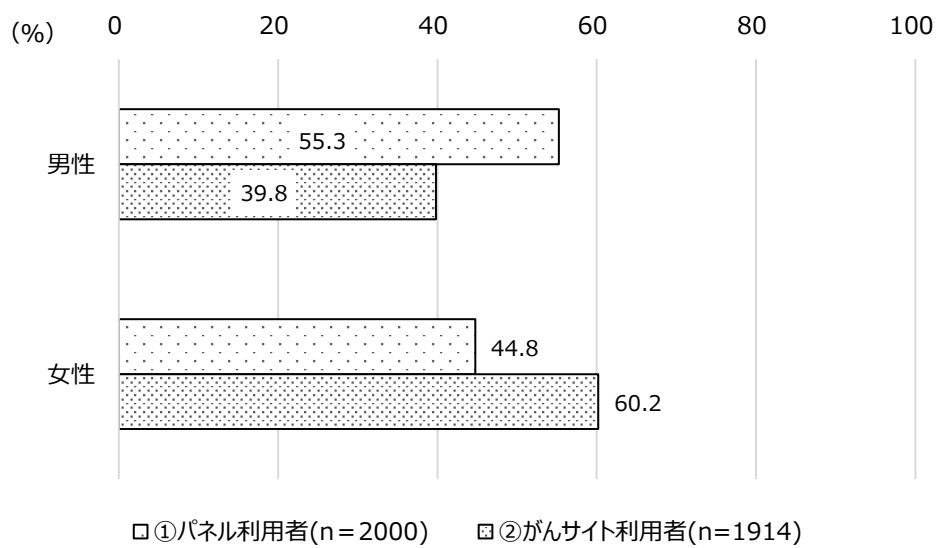


図 3-1 性別

Q1-2.あなたの年齢（年代）をお答えください。（図3-2）

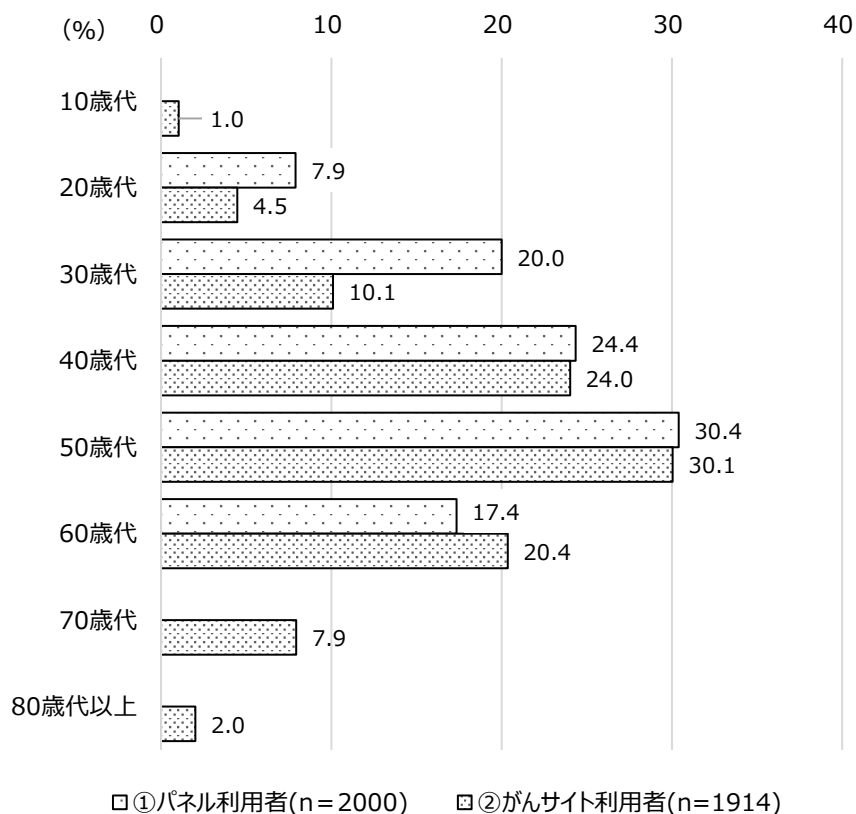


図 3-2 年代

Q1-3.あなたの最終学歴をお答えください。（図3-3）

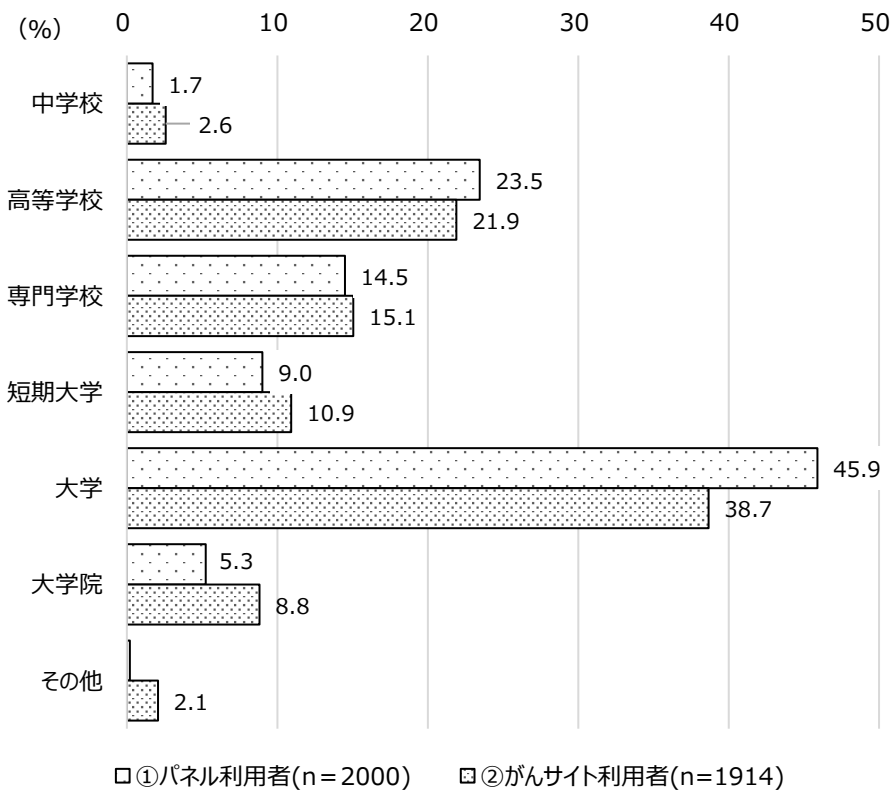


図 3-3 最終学歴

Q2. 普段、あなたが健康や医療に関する情報をインターネット上で探す際に利用するデバイスを教えてください。(図3-4)

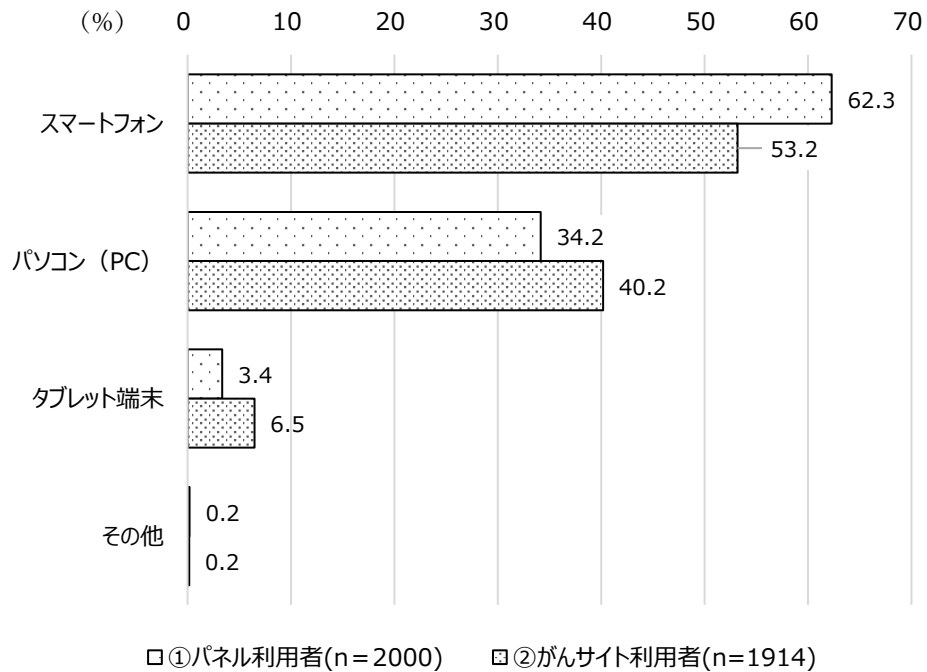


図 3-4 インターネット上での情報収集の際に利用するデバイス

Q3. あなたは普段、どのくらい健康や医療に関する情報をインターネット上で見ますか。(図3-5)

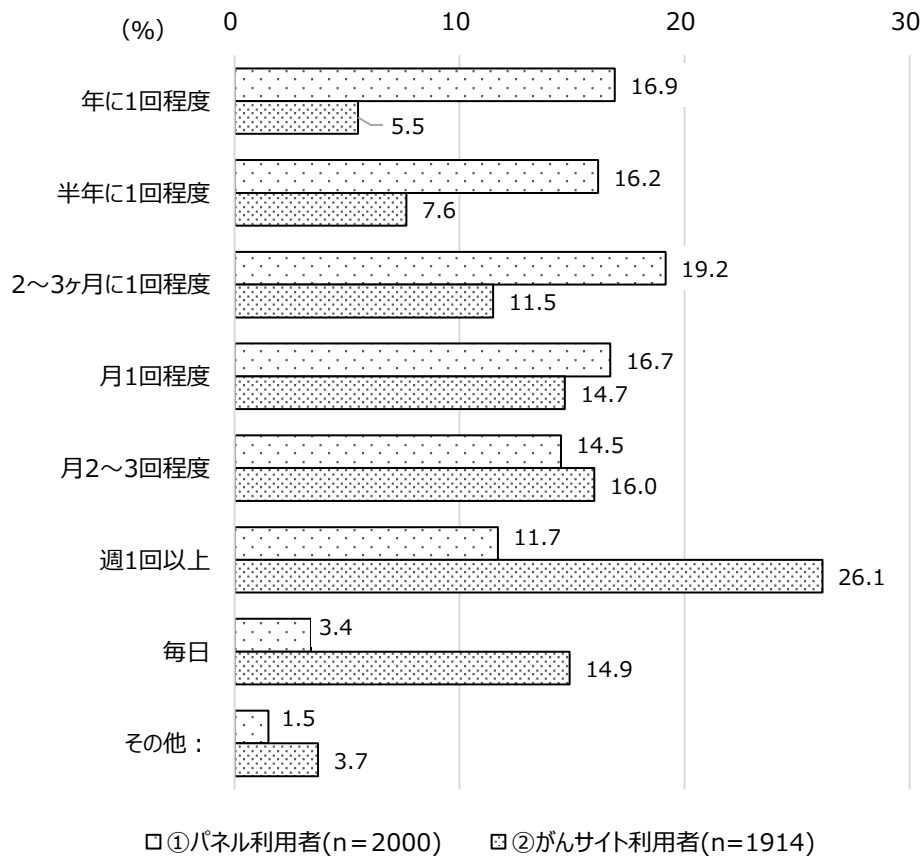
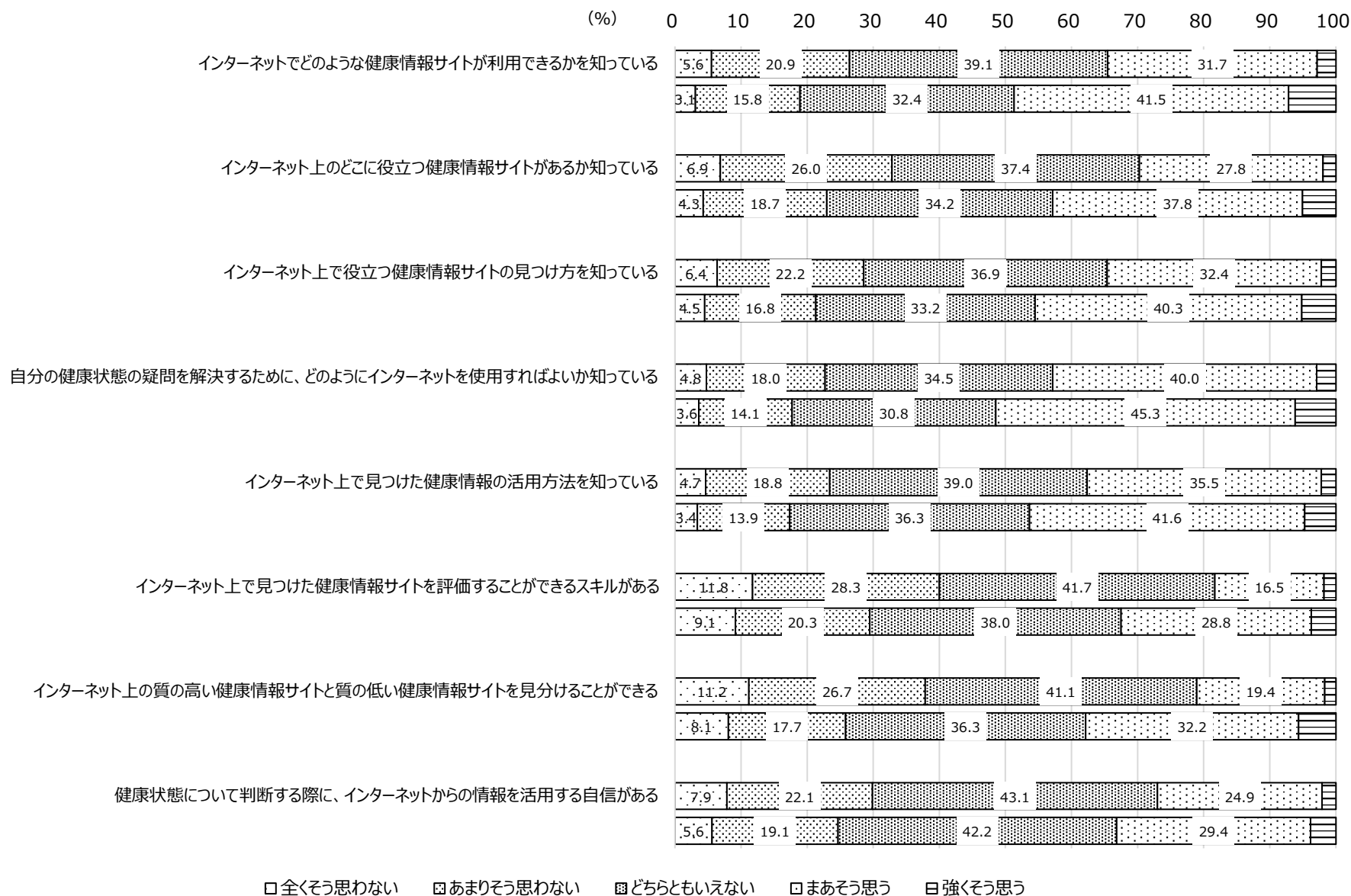


図 3-5 インターネット上での情報収集の頻度

Q4. 以下の項目について、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。(図3-6)



【グラフ】

上段：①パネル利用者 (n = 2000)

下段：②がん情報サービス利用者 (n = 1914)

図 3-6 インターネット上の健康情報を検索・評価・活用する能力：eHealth Literacy

Q5. 健康や医療に関する情報をインターネット上で探すとき、あなたにとって以下のことを実際に確認していますか。(図3-7-1)

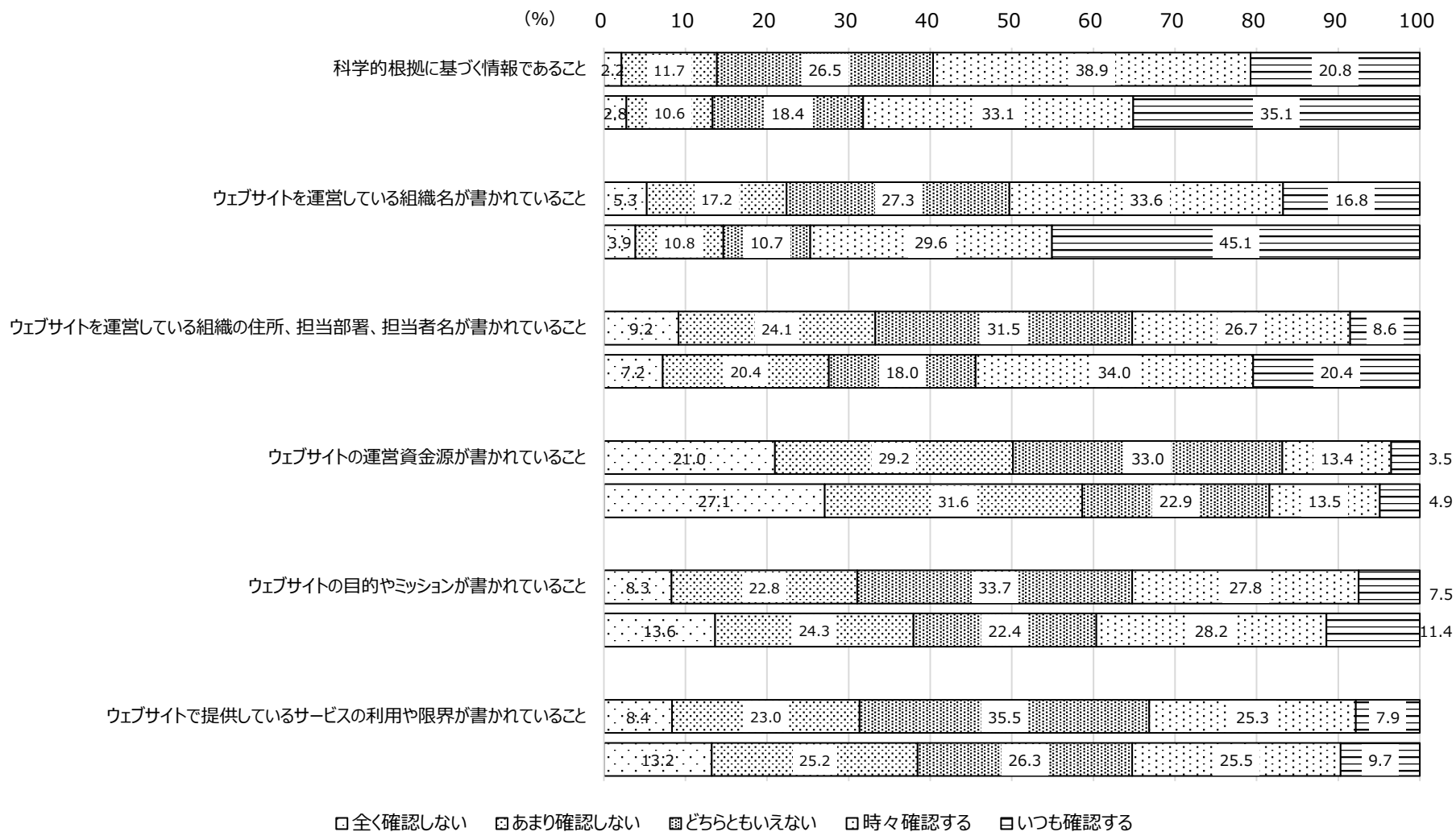


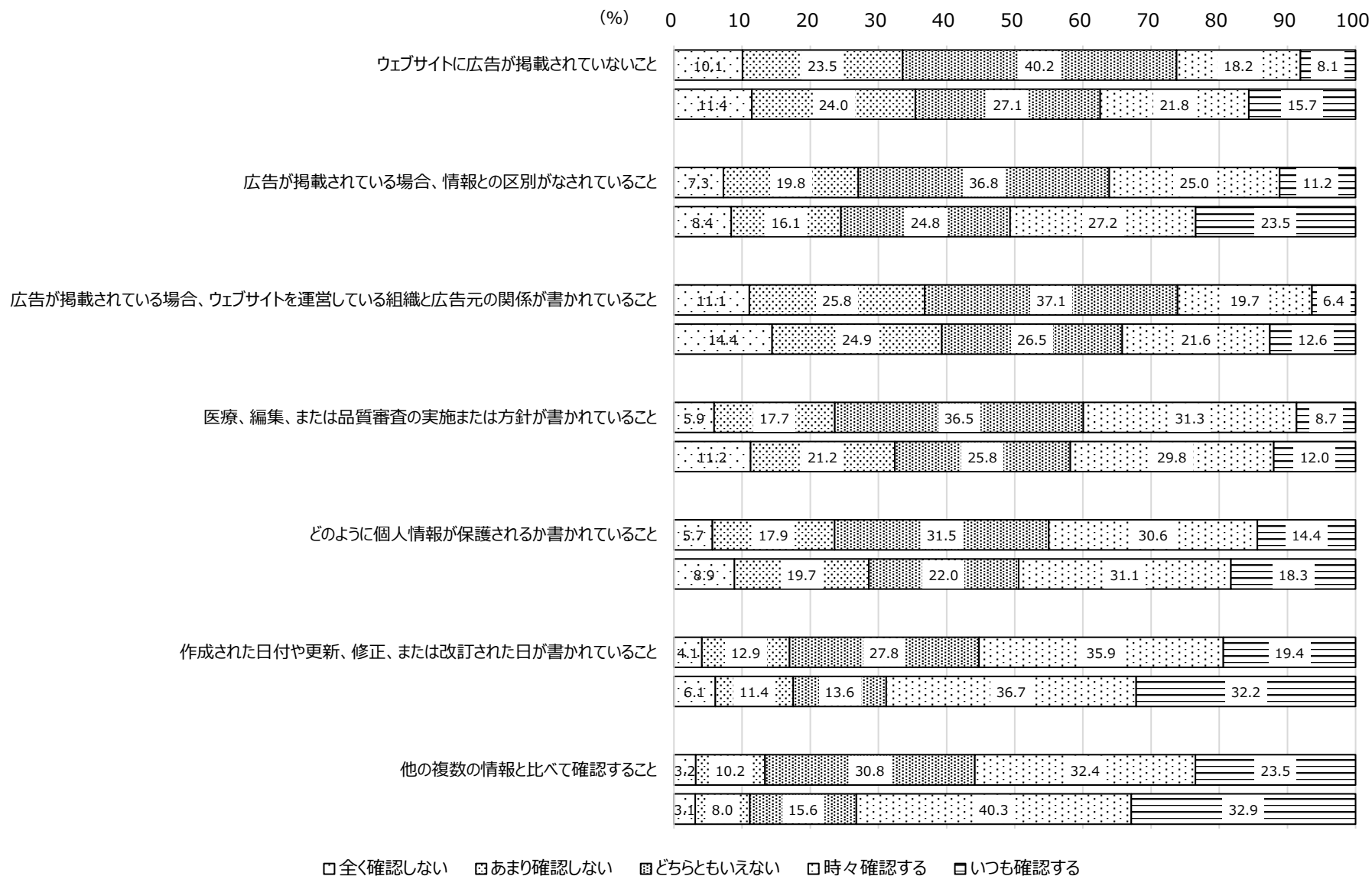
図 3-7-1 インターネット上の健康や医療に関する情報の信頼性を評価する際の確認事項

【グラフ】

上段：①パネル利用者（n=2000）

下段：②がん情報サービス利用者（n=1914）

Q5. 健康や医療に関する情報をインターネット上で探するとき、あなたにとって以下のことを実際に確認していますか。(図3-7-2)



□ 全く確認しない □ あまり確認しない □ どちらともいえない □ 時々確認する □ いつも確認する

図 3-7-2 インターネット上の健康や医療に関する情報の信頼性を評価する際の確認事項

【グラフ】

上段：①パネル利用者 (n=2000)

下段：②がん情報サービス利用者 (n=1914)